



無二の文化資産 」その歴史と魅力～

ノ製造の黎明期、山業と並び業界を牽引」
を超えて受け継がれる情熱と技術」
音色 「甘美な響きその秘密とは？」

写真：1935 年ごろに製作されたベビーグランドピアノ

松本ピアノが設置されている 市内施設 (令和7年1月時点)



- ① 君津市役所
- ② 君津市生涯学習交流センター
- ③ 君津市民文化ホール
- ④ 周南公民館
- ⑤ CAMPiece 君津
- ⑥ 亀山コミュニティセンター
- ⑦ 君津亀山青少年自然の家

※見学を希望する場合は、事前に各施設に確認をお願いします。

現在も松本ピアノのコンサートを開催しています。
詳細は以下の web サイトをご覧ください

君津市
松本ピアノ 特設サイト



松本ピアノ・オルガン保存会
公式ホームページ



松本ピアノに関するエピソードなどを募集します。
どのようなことでも構いませんので、
お気軽に君津市政推進課へご連絡ください。

TEL：0439-56-1568

時を超えて奏でられる
スウィート・トーン



松本ピアノ

-Est.1892-

 **千葉県 君津市**
Kimitsu City, Chiba Prefecture



～君津が生んだ唯一 「松本ピアノ」

- ① 国産ピアノの先駆け 「国産ピアノ」
- ② 創業者 松本新吉の信念 「世代を超えて受け継がれる情熱と技術」
- ③ スウィート・トーンと称される音色 「甘美な響きその秘密とは？」

1 国産ピアノの先駆け 「国産ピアノ製造の黎明期、山葉と並び業界を牽引」

松本ピアノは、国産ピアノ製造の黎明期、山葉（現・ヤマハ）、西川とともに日本 3 大ピアノメーカーのひとつとして名を馳せました。日本の近代化と産業発展を目的に開催された、第 5 回内国勸業博覧会に出品したベビピアノは、ヤマハと並び、最高位を受賞しました。



第 5 回内国勸業博覧会賞碑

2 創業者 松本新吉の信念 「世代を超えて受け継がれる情熱と技術」



松本 新吉
(1865～1941)

創業者 松本新吉は、1865 年（慶応元年）、周淮郡常代村（現・君津市常代）^{すえぐんどこしろ}生まれ。ピアノ製造の技術習得を目的に私費を捻出しアメリカに渡りました。ニューヨークのピアノ製造工場で、ピアノの重要部品である響板の製作に携わり、ピアノ製造の本場で、その技術を習得しました。帰国後、火災や天災による工場の焼失などに見舞われますが、それに負けず、量産品のピアノではなく、手づくりのピアノを作ることに生涯を捧げました。新吉のピアノづくりに対する情熱は、二代目新治、三代目新一まで引き継がれ、親子三代にわたるピアノづくりは日本国内で唯一とされています。

3 スウィート・トーンと称される音色 「甘美な響きその秘密とは？」

効率を重視する他のピアノメーカーとは対照的に、あえて職人の手によるピアノづくりが続けられました。音を響かせる役割を持つ響板には国産の「エゾマツ」を使用し、さらに、音を発する弦線や音を打ち出すハンマーにも一切の妥協を許さなかった結果、生み出される優美な音色は「スウキ（イートーン）」と呼ばれるようになりました。



1910 年ごろに製作されたアップライトピアノ

松本ピアノヒストリー

松本新吉は国産オルガン製造の先駆者、西川寅吉が横浜に設立した西川風琴製造工場で楽器製造の技術を学び、調律師として独立。東京市日本橋区下槇町（現在の日本橋 3 丁目）で紙巧琴（オルゴールのような楽器）やオルガン製作を開始し、その後京橋区新湊（中央区湊）に移り、自宅工場でピアノの試作に取り組みしました。



米国修業時代

満足のいくピアノをつくることができず、1900 年に単身で渡米することを決意。ニューヨークでブラドベリーピアノ社のスミス社長と出会い、訪米した日本人が誰も見せてもらうことのできなかった、サウンドボード（響板）の製造方法など、本場の技術を習得しました。



渡米中の松本新吉

盛況と苦難の時代

帰国後製作したベビピアノが、1903 年の第 5 回内国勸業博覧会で最高位を受賞し、「松本ピアノ」の名が広まりました。1904 年に松本楽器合資会社を設立し、銀座 4 丁目に販売店を開設。1906 年に築地工場が火災で焼失しましたが、月島に新たな工場を建設。この時期、月にオルガ



銀座 4 丁目の松本楽器店

ン 80 台、ピアノ 6 台を販売し、前田侯爵家や原敬首相ら多くの著名人が顧客となっていました。

しかし、月島工場が再び火災に遭い、1915 年に建て直した工場も津波で浸水、1923 年の関東大震災で倒壊するなど、多くの災害に見舞われました。さらに銀座の販売店は経営権を失い、現在の山野楽器店に変わることとなりました。

君津八重原工場時代

新吉は月島工場を再建しましたが、大量生産を進めた長男・広に工場を譲り、六男・新治と共に故郷八重原で工場を新設。「農繁期は農作業に戻る」という条件で地元の青年に技術を継承し、手づくりこだわったピアノ製作を開始。スウィート・トーンを特徴とした「S.MATSUMOTO」ブランドは高い評価を得ました。



君津八重原工場

工場の閉鎖とピアノの修復

新吉は 1941 年に 77 歳で没し、新治も 1945 年に急逝すると、新治の妻・和子が従業員、息子・新一とともに「MATSUMOTO & SONS」ブランドで製作を継続しました。しかし、大量生産の波に押され 2007 年に工場が閉鎖、解体され、工場内のピアノは君津市に寄贈されました。その後、松本ピアノを文化資産として残そうと、市民を中心に松本ピアノ・オルガン保存会が立ち上がりました。新一の指導のもと修復されたピアノは、時を超えて今も奏で続けられています。



松本新一 修復風景